

週日の説教

金 大烈 神父 2011年9月6日(火)

《恋するところ ～イエス様のために涙を流した体験がありますか？～》

今日の福音(ルカ 6・12 - 19)を読んで、思い浮かんだことが二つあります。

一つは、「イエス様に対する愛のために涙を流したことが何回くらいあるのか」ということです。イエス様への愛のため、恋のために、自分の感情をコントロールできなくなってしまい、涙が出てどうしようもなくなった体験があるのでしょうか。もしかしたら洗礼を受けた時くらいでしょうか。それとも、本当につらい状況に陥って、そこから救われたという体験をした時でしょうか。「私は本当に悪い人間だ」と気づき、それでも変わらずにいつも自分を愛してくださっている神様の愛、イエス様の愛にすまない心を感じた時でしょうか。

とにかくこういう体験は、私たちが最後まで上手く生きるためには必ず必要だと思います。今まで何十年も信仰の生活をしてきたけれど、イエス様への愛のために涙を流した記憶がない、と思われる人は、まだまだ本物の信仰の生活に入っていないのかもしれませんが、もちろんそういう体験があってもよく転びます。よく間違えて、罪を犯します。しかし、そのような体験があって罪を犯している人と、そのような体験が全然ないまま生きている人との間には大きな差があります。

イエス様との愛の体験が出来た人は、逃げられません。自分を殺すことになっても、裏切りの道ではなく、裏切らない道を選びます。それが信仰の道です。しかし、イエス様との愛の体験がない人は、いつでも逃げられます。よい条件が目に入れば他へ行ってしまふこともあり得ると思います。

子どもの時から、初恋やいろいろな愛の体験があるのではありませんか。慕う心で誰かを待ち望んだこともあるのでしょうか。そういう気持、そういう体験が、イエス様との間にも必要なのだと私は思います。

イエス様は、本当に尊い存在、全知全能の方だから、近づくのには無理があるかもしれません。しかし、心の中では、そのような感情の世界を体験しなくてはいけないことを意識しましょう。本当にそのような体験ができて、心の中に尊い存在がいらっしやれば、道を外れても逃げられません。

今日の福音を通してもう一つ思い浮かんだのは、最初の「そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。」という言葉です。夜通し祈り、朝になってから、12使徒を選ばれたのです。これを読んで、私たちが生きるための鍵を探せなくてはなりません。

私たちは、大きなこと、小さなこと、いろいろなことにぶつかります。そのような時、何かをする前に一番必要なことは、私たちが「愛しています」という告白をしているイエス様に尋ねることです。

イエス様は、神様です。祈る対象がいない方です。しかし、聖書の中にはイエス様が祈られた、という表現がよく出ています。誰に対して祈られたのでしょうか。それは、お父さんに対してでしょう。お父さんに何を祈られたのでしょうか。おそらく話し合ったのでしょうか。「お父さんが私を遣わされた

使命を果たすために、後を継ぐ弟子達を選ばなくてはなりません。私はこのような人々を集めたのですが、ふさわしいでしょうか。」と尋ね、「ああ、ふさわしい。」という答えをいただいたのでしょうか。「では、お父さんは、この人々を最後まで守ってくださるのですね。」そのような会話を交わされたのでしょうか。その祈りに確信を得て、12人を選び、使徒と名付けることができたのでしょうか。

私たちは、何かをする時に確信が必要です。それが本当に正しいかどうかの前に、確信を持つことが必要です。「私はみ旨に従います」という確信です。その確信があれば、どんな事があっても、何とか前に進めます。そういうことを意識しながら、「あなたに頼ります」という気持ちで、祈る心を持って向かいましょう。そうすれば、どんな事にも上手に対応できると思います。

ありがとうございました。